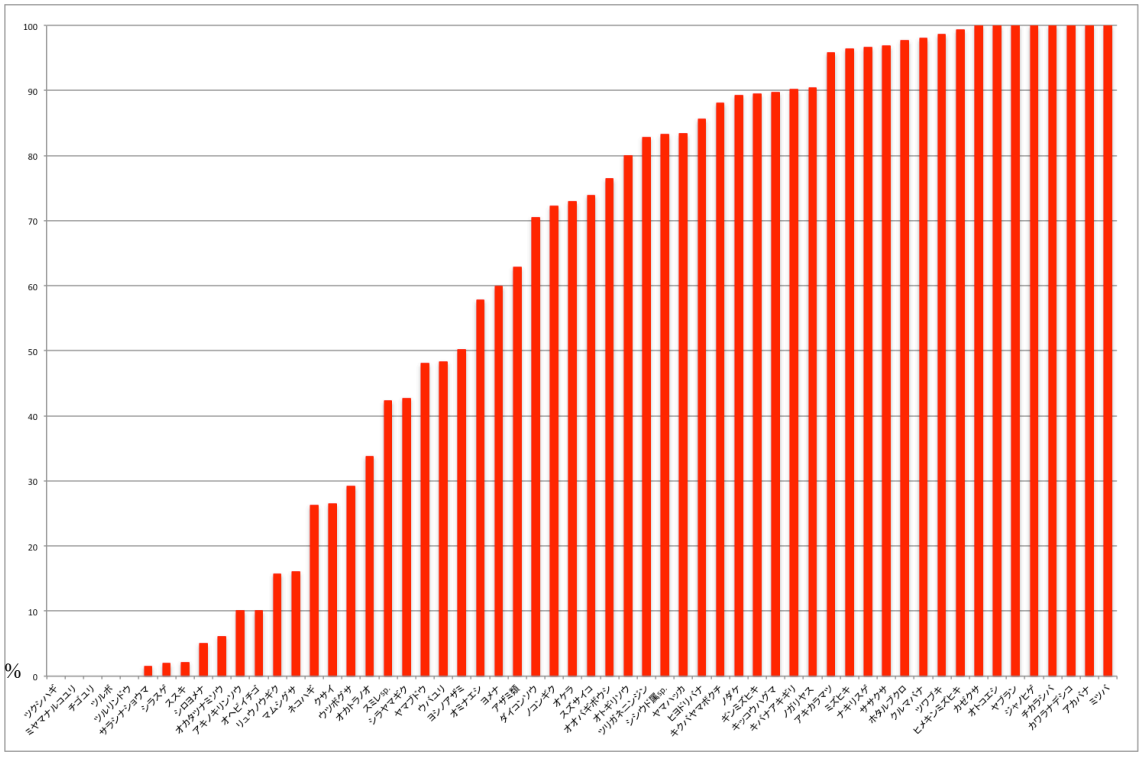
ふるさと尺の内公園の在来植物を用いた植栽整備

三浦憲人（ホシザキ野生生物研究所）

雲南市木次町にあるふるさと尺の内公園では，より自然に親しみやすい公園として，平成 26 年にメイン園路舗装やあずま屋の整備を行った．その後も生きものが生息できる空間づくりとして，ランドスケープデザイナーのポール・スミザー氏の指導・協力のもと，外来種や園芸種を使用しない，公園周辺に自生している在来植物のみを用いた植栽整備を進めている．

平成 28 年度から 3 年間で約 3 万 6 千株を園内へ植え込んだ．それら多くの植物を園内に植栽するためには，周辺の植物を採取するだけでは難しいため，種子から発芽させて育てた株を利用している．そして半数以上を種子からの株を用いている．これら種子の発芽による植栽株生産をする中で調査した発芽率について報告する．

3 年間で，種子から発芽を試みたのは 58 分類群あり，分類群ごとの最大の発芽率は，50%を超えているのが 36 分類群（約 62%），また 90%を超えるのが 18 分類群（約 31%）であった．しかし，毎年発芽率を高く保っている分類群は 4 分類群のみで，同じ分類群であっても，発芽率は一定ではなかった．また，複数年播種を試みた分類群の中には，発芽しない年も確認された．



ふるさと尺の内公園植栽用植物の発芽率の最大値（平成 28 年～30 年）